様式Y－C－01

2019年6月24日	金属産業新聞	5

金属産業新聞　第3898号　週刊（毎週月曜日発行）

春の叙勲で旭日双光章

「三方善」を理念に発展

鈴木建吾会長受章インタビュー

八幡ねじ

本紙6月10日付号にて既報の通り、㈱八幡ねじの代表取締役会長である鈴木建吾氏は経済産業省の推薦により令和元年の春季叙勲において旭日双光章の栄に浴した。ねじの製造・販売を通じた産業発展及び地域貢献、そして愛知鋲螺商協同組合の理事長（2期4年）としての功績が評価されたもの。鈴木会長に受章を受けての所感や近況についてインタビューした。

鈴木建吾会長

―受章を受けて今の気持ちは

私の代になってからITを活用した物流の合理化、ホームセンター向け事業の展開、そして海外拠点の設立といった様々な取り組みを進めてきた。現在当社グループ全体で従業員は1000名を超え、顧客のさまざまなニーズに応えられるようになった。「三方善」を経営理念としてここまでやってきたが、人にも恵まれたこともあり、順調に発展することができた。

正しいことを正しくという方針でやって来たが、間違いではなかったと改めて思う。また個人的には、授章式翌日、眼前で万世一系の陛下に拝謁できたことが、かねてより希望していたことでもあったので大きな喜びだった。

―推薦理由として中小企業振興のほか組合理事長としての功労もあると聞いています

昔から組合（愛知鋲螺商協同組合）より受章者が出て欲しいと願っていた。今回は経産省推薦による受章となったが、自身の理事長としての責務が栄誉に繋がったことを非常に嬉しく思う。これを契機として組合員から続いて受章者がでて欲しいと思っている。

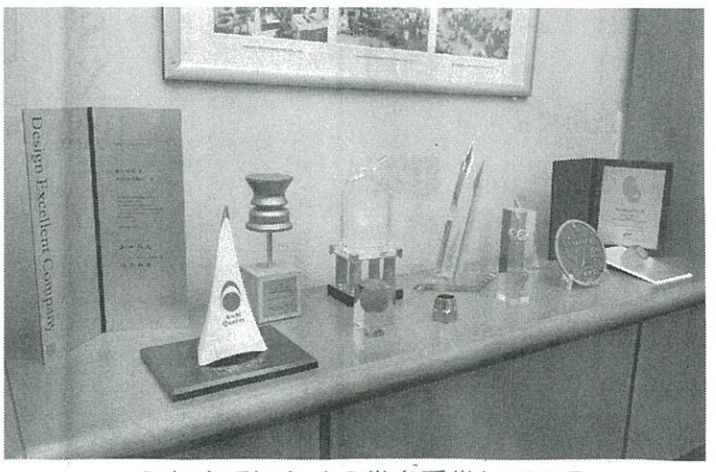
―今後の取組みは

全ての産業は良い時もあれば悪い時もある。我々は常に次の時代に向けてどのような手を打つか考えていかなければならない。昨年より最新鋭の物流システムを備えたテクノセンター（岐阜県各務原市）が稼働しているが、今年中には大学と協同で開発を進めているAIの運用開始が予定されている。また、特に供給が難しい分野を対象としてメーカーとしての能力も強化する計画となっている。

しかし「人が仕事に打ち込めるのは30年」とも言う。次の時代については次世代の人間が考え、切り開いていって欲しい。また常日頃感じていることだが、企業の経営には「徳」が大切だと考えている。徳が有れば上手くいくし、無ければ悪くなる。お陰様でここまで大きな苦労をすることなく来ることができたが先祖の功徳だろうか。

―ありがとうございました（関西支社・後藤）

◇



これまでに多くの賞を受賞している

写真＝同社はこれまでに「中小企業IT経営力大賞（経済産業大臣賞受賞）」をはじめ数多くの賞を受賞している。また近年注力しているデザイン関連においても「グッドデザイン賞」「デザイン・エクセレント・カンパニー賞」など多くの実績を誇っている。なお直近では、今年6月に経済産業省による「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選出されている。